

肝炎ウイルスから肝臓を守りましょう

肝炎ウイルスは、感染していても気づきにくく、感染した状態を放置すると、慢性肝炎、肝硬変、肝臓がんに行進する場合があります。感染を早期に発見し、治療をすることで、病気の完治や重症化予防が期待できます。

肝炎ウイルス検査の結果が、「陽性」または「感染している可能性が高い」と説明を受けた人は、治療が必要かどうかを知るため、精密検査を受ける必要があります。

1. B型・C型肝炎ウイルスとは

B型肝炎ウイルス

《感染経路》 輸血、予防接種の注射器の使いまわし、妊娠・出産時の母子感染が知られていますが、現在は感染防止対策がとられています。最近では性交渉を中心に成人になってからの感染が増えています。

《経過》 成人後に感染した場合は、約3割の人に急性肝炎の症状が出ますが、ほとんどの人が治癒します。母子感染などで感染した人は、約8割が無症候性キャリア（ウイルスが肝臓に住みついているが症状が現れない）となり、成人になると慢性肝炎の症状が現れ、そのうちの10～15%は肝硬変や肝臓がんに進みます。

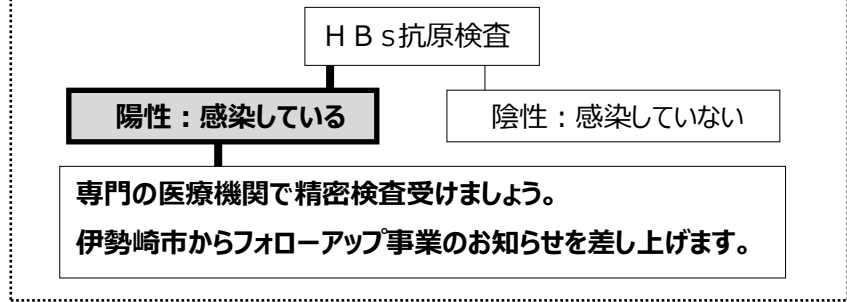
C型肝炎ウイルス

《感染経路》 予防接種の注射器の使いまわし、手術や出産時の輸血・非加熱血液製剤などによる感染が多くを占めますが、現在は対策がとられています。その他、危険なものとして、覚せい剤注射器、入れ墨、ピアスなどが知られています。

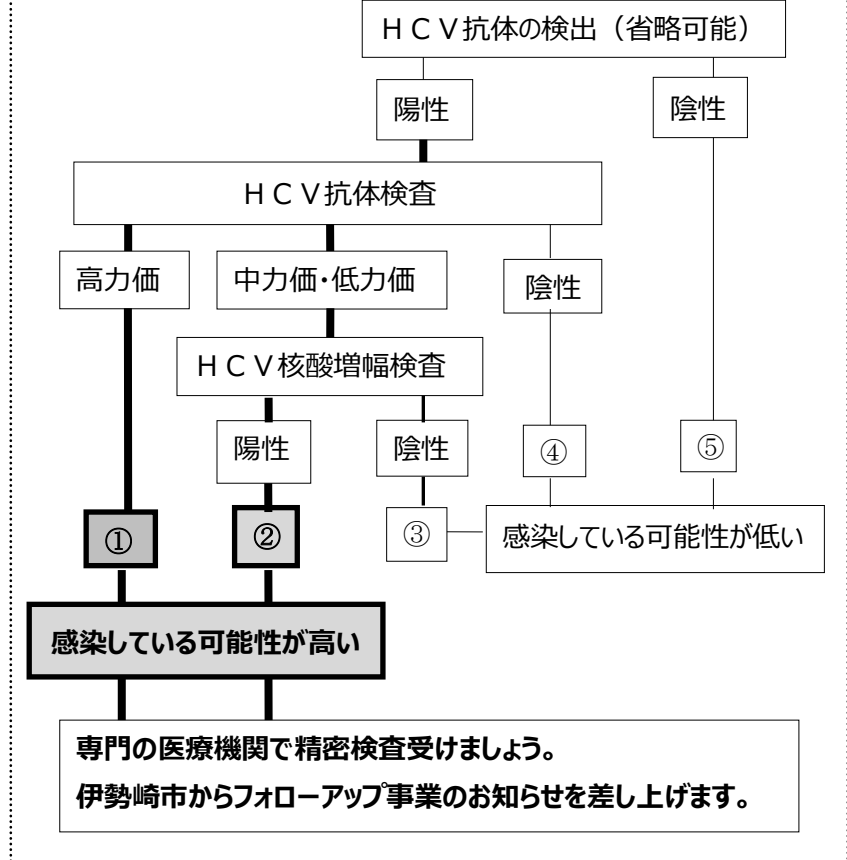
《経過》 慢性肝炎に移行しやすく、治療を受けないでいると20～50年かけて、肝硬変や肝臓がんに進む可能性が高くなります。

2. 感染の有無の判断

◆ B型肝炎ウイルス検査



◆ C型肝炎ウイルス検査



3. フォローアップ事業とは

伊勢崎市では、検査の結果が陽性と判定された人(上記□の人)に、「フォローアップ事業」の通知をお送りします。肝臓病の進行や重症化を予防するため、同意をいただいた人に、年1回調査票を送付し、定期検査や治療が継続できるよう、後押しをさせていただく事業です。また、同意された人は、群馬県が実施する初回精密検査費用助成（医療機関で実施する精密検査のうち、助成対象検査の自己負担額の助成）が申請できます。